

平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日 - 平成 28 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (平成 28 年 3 月 31 日)

(1) 名誉会員

平成 27 年 3 月 31 日会員数	3 名	
名誉会員現在数	3 名	(増減 0)

(2) 正会員

平成 27 年 3 月 31 日会員数	1,109 名	
平成 27 年度新入会員数	107 名	
平成 27 年度退会者数	99 名	
内訳	希望退会者	98 名
	物故者	1 名
正会員現在数	1,117 名	(8 名増)

(3) 維持会員

平成 27 年 3 月 31 日維持会員数	88 社	
平成 27 年度入会社数	0 社	
平成 27 年度退会社数	1 社	
維持会員現在数	87 社	(1 社減)

II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数	
国内	名誉会員	8 冊	
	正会員	1,533 冊	
	維持会員	897 冊	
国外	正会員	9 冊	
	小計	2,447 冊	
(2) 販売数		131 冊	
(3) 贈呈数	箇所数	送本数	
国内	10	40 冊	
国外	5	20 冊	
	小計	60 冊	
合計機関誌送本数		2,638 冊	(140 冊増)
(4) その他			
機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。			

III. 第 62 回通常総会

開催年月日： 平成 27 年 5 月 29 日

開催場所： 京都テルサ

IV. 理事会、評議員会

(1) 理事会 4 回開催

① 第 1 回 開催年月日： 平成 27 年 4 月 24 日

開催場所： 東京大学農学部フードサイエンス棟

② 第 2 回 開催年月日： 平成 27 年 11 月 27 日

開催場所： 中央大学駿河台記念館

③ 第 3 回 開催年月日： 平成 28 年 2 月 15 日

開催場所： 東京大学農学部フードサイエンス棟

④ 第 4 回 開催年月日： 平成 28 年 3 月 14 日

開催場所： 東京大学農学部フードサイエンス棟

(2) 理事・評議員懇談会 1 回開催

開催年月日： 平成 27 年 5 月 27 日

開催場所： 京都テルサ

V. 定期学術集会の開催

第 62 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期： 平成 27 年 5 月 28 日（木）～30 日（土）

会場： 京都テルサ

会長： 喜多 正和（京都府立医科大学大学院医学研究科）

参加者： 1560 名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 27 年 4 月 1 日	64	2	
平成 27 年 5 月 1 日	64	サブプリメント号（電子配信）	
平成 27 年 7 月 1 日	64	3	
平成 27 年 10 月 1 日	64	4	
平成 28 年 1 月 1 日	65	1	

VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第27回学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (1名)

関口富士男 会員 (ハムリー株式会社)

2) 安東・田嶋賞 (1名)

伊藤 守 会員 (実験動物中央研究所)

「ヒト化マウス創出をめざした免疫不全マウスの開発研究」

3) 奨励賞 (2名、五十音順)

香月 康宏 会員 (鳥取大学染色体工学研究センター)

「染色体工学技術を用いた新規トランスクロモソミック動物作製システム開発」

吉見 一人 会員 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「ゲノム編集技術を用いた遺伝子改変ラットの開発研究」

4) 2014年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

秋津 葵、角田 茂、西条 忍、岩倉洋一郎

Rag2-deficient IL-1 Receptor Antagonist-deficient Mice Are a Novel Colitis Model in Which Innate Lymphoid Cell-derived IL-17 Is Involved in the Pathogenesis

「新規大腸炎モデルである *Rag2^{-/-}Il1rn^{-/-}*マウスにおいては ILC3 細胞由来 IL-17A が病態形成に重要な役割を果たしている」

(2) 2014年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2014年受賞者 (8名)

中国 : Zhenkun Li

台湾 : Tsai-Jung Lin

インドネシア : Silvia Arin Prabandari

韓国 : Jin-Hee Seo

マレーシア : Hasliza Abu Hassim

フィリピン : Mikaela Angelica Villablanca

シンガポール : Jassia Pang

タイ : Kasem Rattanapinyopituk

(3) 名誉会員を推挙した。

名誉会員 (3名、五十音順)

高垣 善男 (元中外製薬)

降 矢 強 (元国立医薬品食品衛生研究所)

前島 一淑 (慶應義塾大学名誉教授)

(4) 日本実験動物学会特別表彰を推薦した。

李 栄 純 (ソウル国立大学名誉教授、元韓国実験動物学会理事長)

(5) 第28回学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (2名 五十音順)

須藤カツ子 会員 (東京医科大学)

吉川 泰弘 会員 (千葉科学大学)

2) 安東・田嶋賞 (1名)

小倉 淳郎 会員 (理化学研究所バイオリソースセンター)

「バイオリソースに資する発生工学技術の開発とその応用研究」

3) 奨励賞 (1名)

水野 聖哉 会員 (筑波大学生命科学動物資源センター)

「順・逆遺伝学的手法を駆使した変異マウスの異常形質原因遺伝子の解析」

4) 2015年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

本多 新、廣瀬美智子、山海 直、ヤスミン ルブナ、湯澤和明、本勝希実子、伊豆美奈、井口 純、伊川正人、小倉淳郎

Single-step generation of rabbits carrying a target allele of the tyrosinase gene using CRISPR/Cas 9

「CRISPR/Cas 9 を用いた簡便なウサギチロシナーゼ遺伝子の破壊」

(4) 2015年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

2015年受賞者 (4名)

中国 : Yuanwu Ma

台湾 : Heng-Yi Chen

インドネシア : Devi Kartika

韓国 : Seonggon Kim

VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度ワーキンググループ、国際的規制動向収集ワーキンググループ、将来検討ワーキンググループ、第三者評価検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) 及びアジア実験動物学会連合 (AFLAS) における活動を継続した。
- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。

- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター (JaCVAM) の活動に協力した。

X. その他

- (1) 平成 27 年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)
特別講演「低線量被ばくが生体へ及ぼす影響について」
話題提供「動物実験を取り巻く施設、器材、技術の新潮流」
平成 27 年 11 月 27 日、中央大学駿河台記念館、
参加者：84 名 (会員 77 名、非会員 7 名)
- (2) 第 4 回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)
「新たな疾患モデル動物が切り開く橋渡し研究」
平成 27 年 12 月 11 日、加計学園 50 周年記念館ホール (岡山理科大学)
参加者：157 名 (会員 27 名、非会員 130 名)
- (3) 第 62 回大会期間中に 3 つの LAS セミナーを開催した。(教育研修委員会担当)
- ①今さら聞けない ES 細胞、iPS 細胞 (参加者：97 名)
 - ②遺伝子組換え動物 (ゲノム編集と法規制) (参加者：121 名)
 - ③実験動物福祉 (参加者：125 名)
- 参加者合計：343 名
- (4) 実験動物管理者研修会を開催した。(実験動物管理者研修制度ワーキンググループ担当)
- 平成 27 年 8 月 27-28 日 京都府立医科大学図書館ホール (参加者：127 名)
平成 28 年 2 月 29 日-3 月 1 日 東京大学山上会館大会議室 (参加者：110 名)
参加者合計：237 名 (会員 55 名、維持会員団体職員 52 名、非会員 130 名)
- (5) 第 65 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。
- 会 期：平成 30 年 5 月 16 - 18 日 (予定)
会 場：富山県民会館 (富山県富山市) (予定)
大会長：久和 茂 (東京大学)